日本の伝統を燈す展覧会

第7回 勝福寺寶燈展

林鶴山さんの木工芸の至極

題字／京都仏画研究所 代表絵師 大里宗之氏　画／林鶴山氏

欅拭漆八角食籠
（第47回 日本伝統工芸展入選作品）
26.5cm×26.5cm×14.5cm 平成12年

当日、お茶席の併設を予定しております。
一席 三〇〇円
お茶席開催時間
午前一〇時▼午後三時まで

平成28年
4月23日 土 観覧無料

午前9時30分▶午後4時30分

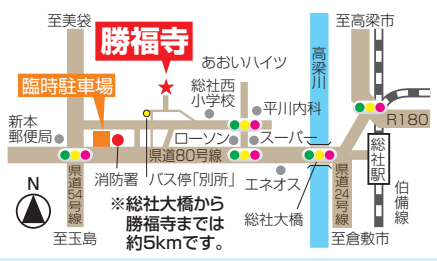
◪主　催　徹林山 勝福寺　◪会　場　勝福寺客殿

伝統を今に生かし、時代の一歩先へ

宗教法人 真言宗 御室派

徹林山 **勝福寺**

■〒710-1201 岡山県総社市久代3438 ■TEL 0866-96-0615
■ホームページ http://www.geocities.jp/gikooh/



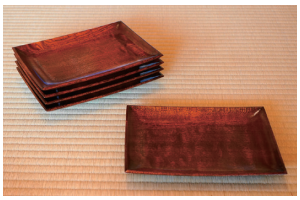
臨時駐車場のご案内

お寺の駐車場が満車の場合、総社市消防署「西出張所」西側の駐車場を臨時駐車場としてお借りしています。そこから勝福寺までは徒歩で約10分（500m）の距離です。

総社市消防署西出張所
総社市久代2635-1
Tel.0866-96-1196

展示予定の作品（一部）

欅拭漆煎茶天目台
10,4cm丸×1,9cm
平成19年頃



欅拭漆菓子器（組物）
20cm×14.5cm×2.1cm
平成15年

神代欅拭漆茶卓（組物）
11cm×9cm×2.1cm
平成14年

欅拭漆沈金棗
8.5cm丸×6cm 平成14年
楓拭漆茶杓
長さ8.8cm 平成14年

欅拭漆硯屏
30.3cm×23.5cm×6.2cm
平成7年

欅拭漆竹節茶風台
80cm×44cm×22.8cm
平成15年

欅拭漆茶具入
45cm×31.5cm×15.5cm
平成14年

献保梨拭漆折紙香盆
47cm×32cm×2.5cm
平成15年

欅拭漆硯箱
32cm×22.5cm×7.5cm
平成15年

山桑拭漆文机
100cm×46cm×30cm
平成7年

欅拭漆盛器
42cm×42cm×7cm
平成22年

欅拭漆提盤
39.5cm×29.5cm×21cm
平成15年

栗拭漆懐石膳（組物）
39.5cm×39.5cm×3.6cm
平成23年

第七回　勝福寺寶燈展のご案内

林鶴山さん「木工芸の至極」の開催に寄せて

勝福寺では今春、日本の伝統文化を燈す展覧会「寶燈展」を開催致します。伝統文化を今に伝え、後世に繋ぐ機縁になればと始まった本展も、第七回目を迎えます。今回は五年ぶりに木工芸家・林鶴山さんの作品（勝福寺所蔵、約五十点の展示を予定しております。

林鶴山さんは昭和二年、倉敷生。十五歳で増田青泉堂に弟子入り、修業に精励されますが約二年後に師は他界、以後七十年にわたり自然を師と仰ぎ、木工芸一筋に歩まれて来られました。日本伝統工芸展に四十五歳で初入選以来三十五回入選、紺綬褒章（二回）、黄綬褒章（一回）、労働大臣賞（現代の名工）、金重陶陽賞等々、受賞歴多数。平成七年、岡山県重要無形文化財認定。

林さんは交友範囲が広く、私の実父（生前中）とも懇意な親交を頂き、幼少期より父と共に幾度となくお宅を訪問するご縁を得ました。林さんの保持された感性は、私の人生に大きな影響を与え、今では生きる智慧となっています。林さんは人に接しては情感深く、また工芸品の鑑識眼、歴史や社会に対しての洞察力など並外れた感性をお持ちです。更に、自然界への畏敬の念から湧き出る事象に対する考え方は常に的を射ており、私は「心の師」として仰いでいます。

さて、古来より茶人の家は良い水脈の上に建つと言われますが、林さんは仕事の合間に嗜好品としての煎茶を好まれる茶人で、文人でもあります。常々地下より汲み上げた清水を炭で沸かし、宝瓶（取手のない急須）でお茶を淹れて下さるのですが、部屋に香煙くゆる中、お床の掛物や生花、道具、そして自ら造園された茶庭を望みながら戴くお茶は至福のひと時です。また、絵を描くことを得意とされ、南画で描かれる四季の図は何とも言えぬ風趣を感じさせます。

物質文明の最高に発達した昨今、日本人の生活様式は随分と多様化しました。私達の周辺には物が溢れて利便性には事欠きませんが、精神社会は個人主義という「種」が蔓延して人の道を脅かし、心配事が尽きない混迷状況になりつつあります。

生活空間においても畳敷きや床の間など、伝統儀式や人の育成に欠かせない和室は減少の一途をたどっています。物事の考え方は多種多様ですが、魂の本質まで変わろうとする現実に危惧を感じております。特に文化というものは国家を支えてきた礎でもあり、世代を超えて大切にし、後世に伝えていかねばならないのです。

今回は木工芸の至極をご観覧頂きます。銘木をより際立たせる木取り、林さんが生涯追求された影の線（美しく上品な線）高い技能、造形、どれも非常に秀逸です。例えば和菓子が量産の器ではなく、名品と称される器に盛られていたらどれほど上品に映えるでしょうか。何事も本物は人を感化させ、心を育てる力を持っています。道具に限ったことではありませんが、本物に触れる生活は意義深いことだと思っています。

寶燈展で日本伝統工芸最高峰の作品をじっくり味わって頂き、美意識の向上、物事の考え方、そして生活に真実の智慧と豊かな心が育まれる機縁になれば有難く存じます。

最後に寶燈展の開催にあたり、多大なご協力を頂きました勝福寺檀信徒並びに、関係者各位に厚く御礼申し上げます。

合　掌

平成二十八年三月

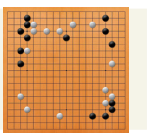
徹林山勝福寺　住職　江原義空

欅拭漆硯 12.5cm丸×5cm 平成15年

次回の「寶燈展」は
「備前焼の美」
を予定しております。

金重陶陽作 色備前 布袋香合
径7.7cm 高さ6.8cm 昭和8年～9年頃

その他の催しもの

■ 写経体験（予定）
本堂において
一奉納 1,000円

■ 将棋コーナー
囲碁コーナー
（予定）無　料